

平成26年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1 生徒の実情やニーズに合わせた教育課程編成 ○ 新学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の編成 ○ 環境教育・平和教育の実践	①生徒の学習上の課題を把握するとともに、基礎学力の定着を図るため、教科の系統性を重視した教育課程の運営に取り組む。 ②生徒の将来設計力を中核とした基礎的・汎用的な能力の発達を支援するため、個々の生徒の進路希望等に対応した教育課程の編成と丁寧な履修指導を行う。 ③修学旅行やその事前、事後の指導を通して、環境教育や平和教育に取り組む。	①生徒の学習状況を踏まえ、課題解決に向けた教育課程編成を実施できたか。 ②生徒一人ひとりの将来設計力の向上を図るための履修指導が実施できたか。 ③修学旅行等を通じ、環境教育や平和教育が行われたか。	①基礎学力の充実とともに多様な進路選択を可能とする履修指導の充実を図るなど、機動的な教育課程運営に取り組んだ。 ②生徒一人ひとりの将来設計に対応した履修指導を実施した。 ③修学旅行の事前・事後の指導を通して沖縄の風土や歴史などについて学習した。また、現地では太平洋戦争当時の話を聞き、平和の尊さを学んだ。	①平成28年度入学生の教育課程の編成について検討し、基礎学力の一層の向上と発展的な学習活動を促進する教科編成に取り組んだ。 ②各教科・科目の内容と進路についてより関連付けを図る必要がある。 ③総合的な学習の時間等を用いた事前・事後の指導をより計画的に行い、環境や平和に対して意識を高めていくことが重要である。	(学校評議員) ・選択科目も含めたカリキュラムの検討を。	(学校評価) ①多様な進路選択が可能となるよう、生徒の学力や理解の度合に応じた適切な学習指導を行うとともに、より適切な教育課程編成に向けて検討を行った。 ②「総合的な学習の時間」や個別面談の機会を活用して卒業後の進路と各科目との関連について適切な指導がなされた。 ③事前事後の指導を通じて沖縄の歴史、環境、文化等を学びながら平和の尊さを再確認させることができた。 (改善方策等) ①生徒の学力や進路希望に応じた教育課程編成に向けてさらなる検討を進める必要がある。 ②卒業後の進路実現に向けて、適切な履修指導が行われるよう、継続的な取組が必要である。 ③修学旅行を通じ環境や平和が生徒にとって身近な問題となるよう、事前事後の指導をさらに充実させる必要がある。

<p>2 基本的な生活習慣の確立と人間力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 頭髪・服装・遅刻指導等を通したルール遵守の徹底 ○ 学校行事や部活動の自主的な活動の推進 ○ キャリアカウンセリングの充実 ○ 挨拶を励行し、活気・元気のある体制づくりの推進 	<p>①モラルやマナーに係る頭髪・服装指導、交通安全指導等をきめ細かく行なうとともに、基本的な生活習慣を見直すという観点から、遅刻指導を推進する。</p> <p>②生徒会や運動部・文化部連合委員会の活動を活発にし、生徒自身が企画・運営・実施ができるように生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>③部活動を活性化するため、各部活動の日ごとの活動や公式戦や発表会の予定や結果を掲示板を利用して広報活動を活発にする。</p> <p>④コミュニケーション力向上の切り口である「挨拶」を奨励するため、年間2回の「あいさつ運動」の回数を増やすなどして、より活気のある学校を目指す。</p> <p>⑤キャリアカウンセリングに係る職員の研修会等を実施することによって全職員の共通理解を促し、カウンセリングマインドの意識を高める。</p>	<p>①段階的な指導が徹底でき、モラルやマナーが向上したか。</p> <p>①遅刻者数が減少したか。</p> <p>②体育祭や文化祭や球技大会、ウインターライプ等の生徒会行事が生徒の意見を尊重しながら生徒主導で企画・運営実施ができたか。</p> <p>③部活動紹介がさらに充実したか。部活動加入率が向上したか。</p> <p>④授業開始・終了時の挨拶の励行が見られたか。校内での挨拶ができたか。</p>	<p>①頭髪・服装指導をきめ細かく行うことで昨年度よりもかなりの改善がみられた。また、反省文指導が浸透し、違反をする生徒が減少した。</p> <p>①遅刻防止指導週間を設け、遅刻指導のテコ入れを図ったが、期間中の遅刻が激減し、大きな効果があった。また、遅刻をしないという意識が下級生を中心に生まれている。</p> <p>②生徒会は毎週1回打ち合わせを行い、各行事の企画段階から委員会とクラスとの意見交換をしながら丁寧に準備を行い、昨年以上に順調に運営され盛り上がった。</p> <p>③生徒による運営と部紹介ビデオを活用し、全体の部紹介だけではなく、各部の様子が分かる部紹介であった。年間を通じて、各部活動の予定表ならびに結果一覧表を集約し校内に掲示した。</p> <p>④年2回の「あいさつ運動」において、PTAの協力も得られ一緒に行った。また、多くの部活動が担当日以外にも積極的に運動に参加・協力していた。</p>	<p>①指導を行う上で、教員間に認識のばらつきがあった。教員間で指導のぶれがないよう、今後も共通理解を図っていききたい。そのための方策として、年度初めの「生活支援要項」の十分な読み込み、授業開始時における「共通読み上げ事項」等の徹底を図りたい。</p> <p>①遅刻については上級生になればなるほど意識が薄れてくるという傾向がある。来年度は1学期より遅刻防止指導週間を設け、意識の啓発を図っていききたい。</p> <p>②より多くの生徒が楽しめる行事にするために、多くのアイデアを募ると同時に、さらなる意見交換を行っていききたい。</p> <p>③1年生対象の部紹介のさらなる充実と体験入部期間を工夫してみる。昼の放送等で部活動の予定や結果を定期的に放送する。部活動の日を年1回ではなく、2～3回実施し、運動部・文化部関係なく問題提起したりしてお互い刺激し合えるような雰囲気作りを試みる。</p> <p>④年2回ではなく、実施回数を増やすことができるように生活支援グループや生徒会役員と計画を立てたい。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は生徒指導に熱心に取り組んでいる。 ・文化祭、球技大会、遠足などの学校行事が充実している。 ・部活動が活発に行われている。 ・頭髪指導の基準にクラスによって差があるのではないか。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数を数値で表せないか。 ・校内でのみならず校外でのマナーも向上するとさらによい。 	<p>(学校評価)</p> <p>①頭髪、服装、マナーに関して、日常の指導の成果が目に見えて現れている。また、11月に行われた遅刻防止指導週間においては遅刻者の数が大幅に減少した。</p> <p>②生徒の意見を取り入れた生徒主体の運営がなされたことにより、行事が活性化してきており、昨年度に比べ保護者の満足度も上昇している。</p> <p>③部活動に関する様々なPR活動を行ったことにより、部活動が活性化し、部活動に対する関心が高まった。</p> <p>④授業や部活動においてのみならず、廊下等でも挨拶する様子が見られ、挨拶を奨励する指導方針が浸透しつつある。</p> <p>⑤一人ひとりの教員が研修会を通じてキャリアカウンセリングマインドを醸成していく必要がある。(改善方策等)</p> <p>①指導の基準に差異が出ないよう留意しつつ、日常の指導を継続していくことが必要である。</p> <p>②生徒と職員間の隔達な意見交換を通じて、より自主的な生徒会活動が行われるよう努めていくことが大切である。</p> <p>③部活動の加入率が高まるよう、様々な場面を捉えて部活動の情報を発信する必要がある。</p> <p>④校内においてのみならず、校外においても気持ちの良い挨拶やマナーが見られるよう、指導を継続していく。</p> <p>⑤実施時間や実施形態などを勘案しつつ、より効果的な研修会が実施できるような取組に努める。</p>
--	---	---	---	---	---	---

		⑤キャリアカウンセリングの実践に関して自己チェックできたか。	⑤参加者が少なく、研修への参加意欲が不十分である。自己チェックができたとは言えない。	⑤研修への参加は必須である自覚を持たせることと、全職員が参加しやすい実施時期の検討をする。		
<p>3 基礎学力の定着と学習意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動を通じた表現力やコミュニケーション能力の育成 ○ 生徒参加型授業を活用した教科としての組織的な授業改善を通じた基礎・基本の知識の定着及び汎用的能力の育成 ○ 各教科において、共通テストの本格実施・共通教材の工夫の実践 ○ 小中学校との連携による授業研修会の実施 	<p>① 1・2年生を中心に、長期休業中の補習・講習や土曜学習の実施を通じて、基礎学力の定着や学習習慣の確立など、生徒自らが学習上の課題を認識し、取り組む姿勢を育む。</p> <p>② 3年生を対象に、放課後を活用した講習や外部講師による課外授業等の「接続教育プログラム」の作成・実施を通じて、大学等の上級学校における勉学に対応できる学力の充実を図る。</p> <p>③ 「生徒による授業評価」の結果分析を活用し、生徒が主体的に取り組めるような生徒参加型の授業を展開する。また、各教科等の指導において言語活動を充実させるため、思考・判断・表現に係る活動を行うとともに、発表させる機会を積極的に設ける。</p>	<p>① 夏季休業中の補習・講習や土曜学習が実施できたか。</p> <p>② 「接続教育プログラム」が作成でき、展開できたか。</p> <p>③ 生徒参加型の授業への取組が行われたか。</p> <p>③ 授業において、発表の機会が多く設けられているか。</p>	<p>① 夏季休業中を活用した補習・講習を実施し、また、土曜学習会では、学習上の課題を抱えた生徒に学習機会を提供した。</p> <p>② 3年生の早期進路決定者(43名)を対象とした「接続教育プログラム」を作成・実施し、進路先に求められる学力の定着を図った。</p> <p>③ 「生徒による授業評価」の結果を分析し、今後の授業展開の改善を目指すとともに、生徒参加型授業の展開を図った。</p> <p>③ 授業研究週間と県立高校教育力向上推進事業 Ver. IIでの取組をリンクさせ、ともに生徒参加型授業の展開を図った。</p>	<p>① 講習・補習に参加する生徒が少ないので、より参加しやすい講座の設定を工夫する必要がある。</p> <p>② 3年生の参加人数が少なく、進路先での学びに向けて生徒の意識を高めていく必要がある。</p> <p>③ 「生徒による授業評価」の結果や、日常の授業における生徒の取組状況などを踏まえ、生徒参加型の授業がより効果的に行われるよう、継続的に取り組む必要がある。</p> <p>③ 「生徒による授業評価」、授業研究週間、県立高校教育力向上推進事業 Ver. IIでの取組を一体のものとし、更なる授業改善に努めていく必要がある。</p>	<p>(保護者) ・教員は熱心に授業に取り組んでいる。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>① 夏季休業中の補習・講習、土曜学習会を行い、生徒の基礎力の定着や発展的学習を図った。</p> <p>② 今年度より導入した「接続教育プログラム」により、上級学校に進学する生徒の意識改革を図ることができた。</p> <p>③ 授業研究週間や授業観察などの機会を捉えて、生徒参加型の授業展開が図られた。</p> <p>④ 2回行われた授業研究では事前事後の研究協議を行い、まとめを各教科で共有することにより、教科を越えた範囲で授業改善を図った。</p> <p>⑤ 各教科での実践により、部分的な共通問題実施も含め、共通テストへの取組がなされている。</p> <p>⑥ 教員としての幅や見識を広め、スキルを高めるという観点で、他校種との連携は有意義である。</p>

	<p>④教科横断的な取組により、組織的な授業改善を推進し、研究授業及びその前後の研究協議を充実させ、基礎・基本の知識の定着及び汎用的能力の育成を図る。</p> <p>⑤各教科において、共通テストを本格的に実施するとともに、共通教材の工夫を推進する。</p> <p>⑥小学校・中学校との連携において、より効果的な交流研修に向けた検討を行う。</p>	<p>④教科横断的な取組により、研究授業や研究協議が充実したか。</p> <p>⑤各定期テストで共通テストが実施できたか。共通教材が工夫できたか。</p> <p>⑥小学校・中学校と効果的な交流研修の検討が行われたか。</p>	<p>④第1回の授業研究では学年を中心とした教科横断的な単位で授業研究を行った。</p> <p>⑤各定期テストにおいて、授業の進度に対応した共通テストの実施を促進するとともに、評価と指導の公平性と信頼性を高めるよう取り組んだ。</p> <p>⑥初任者を対象に校長の直接指導の下、「小学校・中学校他校種訪問研修」をのべ3回行った。</p>	<p>④教科別に行う第2回の授業研究とともに、組織的、継続的な取組が必要である。</p> <p>⑤教科の特性や授業における教科担当者の創意工夫と定期テストの共通化の間には依然として検討すべき課題がある。</p> <p>⑥この研修で得た事柄が日常の教育活動に反映されるよう、初任者の不断の努力が必要である。</p>		<p>(改善方策等)</p> <p>①受講生が増えるような方策を講じて、さらに発展充実させる。</p> <p>②「接続教育プログラム」をさらに推し進め、上級学校で求められる学力の育成に努めることが求められる。</p> <p>③今後さらなる授業改善が図れるよう、教科内での情報交換や、「生徒による授業評価」の結果分析に努める。</p> <p>④研究協議で取り上げた内容や「生徒による授業評価」の分析結果が、授業に反映されることが大切である。</p> <p>⑤共通テストの完全実施に向けて取組むべき課題の整理が必要である。</p> <p>⑥他校種との効果的な連携に向けて必要な検討を行う。</p>
<p>4 自ら進路選択するキャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3年間を見通した段階的キャリア形成の推進 ○ 職業研究や学校研究を通した進路開拓の意識の向上 ○ インターンシップ等による職業体験を通した職業観の育成 	<p>①生徒一人ひとりにふさわしいキャリアを形成していくために「働くことの意義」を視聴覚教材で学習させたり、「大学で学ぶことの意義」を学習させたり、上級学校の出張講義の実施やオープンキャンパスへの参加を勧めたりすることでキャリア形成に必要な意欲・態度・能力を育てる。</p> <p>②インターンシップ(就業体験)への参加を勧め、職業観の育成を図る。</p>	<p>①キャリア形成に必要な意欲・態度能力が身についたか。</p> <p>②インターンシップへの参加者が増加したか。</p>	<p>①総合的な学習の時間における各種講話、グループ体験等を通して、かなりキャリア形成への意欲・態度能力は養われた。</p> <p>②インターンシップへの参加者数はやや前年度を下回ったが、参加者は、体験発表会への参加等を通して職業観の育成につながった。</p>	<p>①各学年毎のプログラムを見直し、さらに、充実するよう計画・実行をしていく。</p> <p>②単に数の増加だけでなく、参加者への事前事後の指導を通して質的な向上を目標とした。</p>		<p>(学校評価)</p> <p>①「総合的な学習の時間」を用いて、キャリア形成のための発達段階に応じた適切な指導が行われた。</p> <p>②参加者が減少した一方で、取組内容の深化も見られ職業観の育成に寄与した。</p> <p>③シチズンシップ教育の中の主に消費者教育に焦点を当てた取組を行った。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>①発展充実を目指し、教育内容について更なる検討を推し進める。</p> <p>②事前事後の指導を充実させ、参加者の増加を図るとともに質的な向上を図る。</p> <p>③司法参加教育等の内容も適宜取り上げ、さらに充実したものになるよう検討を加える。</p>

	③模擬裁判等、シチズンシップ教育に係る取組を実施する。	③学校行事等を活用したシチズンシップに係る取組ができたか。	③「総合的な学習の時間」において、「金銭教育」や「ライフ・デザイン」などのテーマを取り上げた。	③政治参加教育や、司法参加教育に関する取組も検討、実施する。		
5 地域との連携・交流を通じた教育活動の推進 ○ 地域連携及び周辺環境を活かした環境教育・多文化教育等の推進	①学校敷地（林や空き地）や周辺地域の有効活用について地元の方々と一緒に研究する。 ②地域と連携した「クリーン運動」の内容についての意義を生徒職員がより深く理解し、地元の方々の協力を得て積極的に参加するよう意識の向上を図る。 ③新羽小学校の「土曜塾」に生徒が積極的に参加するように、生徒会として取り組む。 ④地元小学生を招いて「スポーツ体験教室」を企画する。	①学校下空地（三角コーナー）の整備が進められたか。また、敷地内及び周辺地域の有効活用について、情報収集し検討が進められたか。 ②清掃範囲や清掃方法について地域の方々の情報交換を行うことができたか。 ③生徒会以外の多くの生徒が「土曜塾」に参加できたか。 ④「スポーツ体験教室」を実施することができたか。	①学校下の空き地に関してまで余裕がなかった。 ②天候に左右された回数があったが、クラスごとに「クリーン運動」を年間に渡って実施し、清掃活動に関する意識が高まった。 ③生徒会中心で活動することが多かった。 ④地元小学生約40名と一緒に運動部の生徒たちと半日各種目で活動した。小学生に指導することにより生徒の部活動に対する意識が高まった。	①花壇として利用する計画を進めていきたい。 ②生徒の活動範囲が広くなり、実施時期や清掃内容（清掃範囲やPTAと一緒に）などに充実させていきたい。 ③4月当初に「土曜塾」の説明を公の場で行う。宣伝方法の工夫。 ④早めに周知したり、採用種目の選択を検討しながら継続して行うことで、参加人数を増やしていきたい。	（保護者） ・ホームページをこまめに更新してほしい。 （学校評議員） ・ホームページによる情報発信を大切に。 ・小学校、中学校、高校の児童生徒がまとまって何か取り組めるものがないか。 ・部活動も含めた教職員の交流は図れないか。	（学校評価） ①環境整備の視点を持ちつつ、学校下の空き地及び周辺の有効な利用が必要である。 ②地域の方々との協力も含め、恒例の行事として定着している。 ③ボランティア部の部員を含め年間10回程度の活動が見られ好評であった。 ④初めての試みであるが、近隣の小学校から約40名の参加があり、盛況であった。 （改善方策等） ①花壇として利用するなど具体的な計画を検討する。 ②清掃範囲や清掃内容についてより充実できるよう、更なる検討が必要である。 ③さらに広まるよう、生徒に対してのPRに努め、活動の輪を広げていく。 ④次年度以降も多くの参加者を迎えてさらに充実したものになるよう、工夫検討をする。

<p>6 学校運営の効率化と事故・不祥事防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文書事務の効率化 ○ グループ・学年等組織業務効率化・共有化による学校運営の円滑化の推進 ○ 事故・不祥事ゼロの取組の推進 	<p>① 定期テストの作成・点検及び成績処理業務の点検等、精度の高い業務執行を行うため、業務要領の改善を図る。</p> <p>② 学校全体に関連する業務について、他グループとの連携を図るため、情報の共有化を綿密に行うとともに、グループ横断的な業務については、プロジェクトチームを弾力的に編成するなどして、組織的な業務運営力を高めた業務体制を構築する。</p> <p>③ リーダーとサブリーダーとの連携を密にして、グループメンバーの進捗状況を充分に把握し、円滑かつ効率的な業務運営に努める。</p> <p>④ 業務を計画的に進めるとともに、終了後直ちに検証を行い、次年度への申送事項を記録する。</p> <p>⑤ 各グループの業務分担表を全リーダーが共有して、連携の端緒とする。</p>	<p>① 定期テストの作成や成績処理における事故防止に向けた取組ができたか。</p> <p>② グループ横断的な教育課題について組織的な取組を行う体制づくりができたか。</p> <p>③ グループ内で業務についての情報を共有し、効率的で円滑な業務運営ができたか。</p> <p>④ リーダーとサブリーダーの連携が密に図れたか。</p> <p>⑤ グループメンバー全員がスムーズに業務を進行できたか。</p> <p>⑥ また、次年度へのスムーズな業務の引き継ぎができたか。さらに、次年度の業務への意欲的な展望につながったか。</p> <p>⑦ リーダー間の連携が密に図れたか。</p> <p>⑧ 職員間で事故・不祥事防止の意識が高まったか。</p>	<p>① 定期テストや評価資料の適切な処理システムを確立するとともに、教職員が相互に点検する体制を構築した。</p> <p>② グループ横断的な教育課題について議論する場として、教育課程検討会議を設置した。</p> <p>② 企画研究グループとの連携により、キャリア教育（総合的な学習の時間での実践）がスムーズに展開できた。</p> <p>③ 業務分担については縦横の連携がとれ、スムーズに進行できた。</p> <p>③ 話し合いを密にすることが大前提だが、必要に応じて回覧等での周知を徹底できた。</p> <p>④ グループの中でのサブリーダーの役割が明確化できず、システムとして定着しなかった。</p> <p>④ 特にサブリーダーの業務分担は設定しなかったが、適宜相談しながらグループ業務全体への目配りを指示した。</p> <p>⑤ よく進行できた。</p> <p>⑥ パート毎に次年度担当者への引き継ぎを確実に行った。</p> <p>⑦ ある程度できた。</p> <p>⑧ 互いに注意し合う姿勢ができ、意識が高まった。</p>	<p>① 成績処理支援マニュアルについて、各教科担当者の作業をより分かりやすくしていく。</p> <p>② 学習及び進路指導を関連付けた取組を進めるための組織が必要である。</p> <p>③ 各パートの業務状況を常に観察する。こまめな声かけにより進捗状況を把握するようにする。</p> <p>③ さらに実践を展開すべく、日頃からコミュニケーションをとるようにする。</p> <p>④ サブリーダーの位置づけを学校としてシステム化し、グループ業務の効率的な進行を学校全体として図っていく。</p> <p>④ サブリーダーの分担業務について考えていきたい。</p> <p>⑤ グループ員間のコミュニケーションを常に意識して進行したい。</p> <p>⑥ 引き継ぎの正確さが業務進行の最重要課題であることを自覚させる。</p> <p>⑦ 他グループの業務をよく観察し、適宜支援する姿勢を保つようにしたい。</p> <p>⑧ 声かけ、観察、アドバイスを遠慮しない。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>① 定期テストや成績処理において、チェックリストを使用し適切に実施された。</p> <p>② 教育課程検討会議を設置し、新しい教育課程の検討を行った。</p> <p>③④⑤ グループ業務の遂行や、グループ間での意思疎通が情報を共有しつつ円滑に行われた。</p> <p>⑥ 定期的に事故防止会議を開催し、職員の意識啓発に努めた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>① 事故防止の観点に立ち、マニュアルによる、分かりやすい業務遂行に努める。</p> <p>② 今後も各教科からの意見を踏まえ、継続的に検討を進めていく必要がある。</p> <p>③④⑤ 多様な課題や、緊急に検討を要する問題に対して、迅速かつ適切に対応できるよう、グループ内、及びグループ間での連携を密に図る必要がある。</p> <p>⑥ 引き続き事故防止会議等の機会を捉え、県民の信頼回復に向けた取組を行う必要がある。</p>
--	--	---	--	--	--

	<p>⑥時宜を得た事故防止会議や不祥事防止研修会を設け、事故防止に日々取り組む。</p>		<p>⑥事故防止・不祥事防止日直の実施により、注意が喚起され、一人ひとりが事故防止について考えることができた。 また、8回の事故不祥事防止研修会（内2回は外部講師によるもの）を実施し、より具体的な事例について学ぶことで、事故防止に向けての意識改善をすすめることができた。</p>	<p>⑥職員により一層の意識改善を求め、事故不祥事が起こらない環境を整えることができるよう、今後も計画的に研修会を開催するとともに、その内容の充実をはかる。</p>		
--	--	--	---	--	--	--